

令和5年度フロンティア・アドベンチャー 「やまなし少年海洋道中」事業報告

事業概要

今年で34回目を迎えたフロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」は、台風の影響もあり、計画していた日程を1日短縮して令和5年8月2日から8月9日までの8日間、東京都八丈島においてキャンプ生活をしました。八丈島の皆さんのご協力もあり、予定していたプログラムをほとんど実施することができました。

漁業体験、スノーケリング、八丈島の小中学生のとの交流、1泊2日で八丈島内を巡るサバイバル踏破など、参加した中学生は、様々な体験活動を通して、多くのことを学び、これまで以上に大きく成長することができました。

出発の日（8月2日）



研修初日、山梨県立図書館イベントスペースにて出発式を行いました。7月初めに事前研修会を行ってから約1ヶ月が経過し、久しぶりの仲間との再開、そして、いよいよ親元を離れて旅立つということで、少し緊張した面持ちの参加者を迎えました。それでも、顔を合わせて話し出すと表情も和らぎ、これからへの期待に、心弾む様子がうかがえました。

誓いの言葉では、参加者代表が「家族以外の仲間や指導者と8泊9日という時間を共に過ごすことにより、他人を思いやり、自ら考え自ら行動する中学生に成長します。」「八丈島ではひとりひとりの個性を認め合いながら、ひとりひとりが主役となり、みんなで最高のアドベンチャーを創り上げることを誓います。」と宣誓し、初日の良いスタートを切ることができました。出発式を終えた後、見送りに来てくださった多くの保護者の方々の中で、元気に「いってきます」と挨拶をして、バスに乗り込み、竹芝桟橋へ向かいました。竹芝では、係・班別のミーティングを行い、夜の海に浮かぶ「橘丸」に乗船し、八丈を目指して出港しました。



八丈島到着、開村の日（8月3日）



2日目。約10時間の船旅。船酔いする参加者・指導者もいましたが、天候にも恵まれ、デッキに出るとキラキラ輝く海が広がっていました。水平線の先に何もなく、延々と海が続く景色は壮観でした。

八丈島へ到着して下船するとすぐに、今年度も八丈町教育委員会（以降、八丈教委）の皆さんが、横断幕やのぼり旗を持って、温かい笑顔で迎えてくださいました。歓迎セレモニーでは、八丈町の佐藤教育長より歓迎のお言葉をいただき、八丈の地でたくさんの経験をし、大きく成長することを胸に誓いました。朝食を食べ終えると、気持ちの良い空の下を、みんなで垂戸ベースキャンプ地（以降BC）へ向かい歩きました。

BC到着後、全員でテント設営等を行いました。大学生ボランティアリーダー（以降VL）の指示を聞きながら、班ごとに割り当てられたエリアに、テント2張りと食事テントを、どの位置に、どんな向きで設置するか等、自分たちの今後の生活を考えて設営していきました。1ヶ月前の事前研修で学んだことを思い出しながら、仲間と協力する姿が見られました。



設営を終えた班からシャワーを浴びに行き、その後に開村式を行いました。各班、自分たちが八丈島でどんなことを目標に、協力して生活していくか、班長は、この事業の目標である「友情・奉仕・連帯・開拓・交流」に基づいて、班を代表して決意表明しました。参加者それぞれに士気を高める時間となりました。

開村式を終えて、初日の野外炊事に移りました。ここでも事前研修の実習が活き、どの班も火起こしから調理、片付けまで、班で上手に分担しスムーズに活動を進めていました。自分たちで作った八丈島上陸後の初炊事で作った親子丼の味は格別でした。食べる頃には辺りは真っ暗でしたが、ヘッドライトに照らされたみんなの笑顔が眩しい夕食になりました。



昨年度に引き続き、事前のキャンプ用品の搬入や集会テントの設営、毎日の氷の準備等、各研修活動プログラムへのサポートをしてくださった八丈教委の方々には、本当に多大なる御支援をいただきました。この後の日程が無事終えられたのも、手厚い御支援のお陰です。



研修3日目は、島の醍醐味でもある海洋体験の日。

この日も晴天。絶好の海日和の中、まず、神湊漁港に向かい、漁船のクルージング体験をしました。初めて漁船に乗る参加者がほとんどだったと思いますが、どこまでも続く空と海の青い景色に感動しました。広い海を優雅に泳ぐウミガメや船と併走して海上を飛行するトビウオに参加者は歓声を上げずにはいられませんでした。

クルージングを終え、次はくさや工場へ向かいました。昨年度は漁の関係で実施できなかったプログラムでしたが、今年度は島でも有名な「マルタ水産加工場」様のご協力のもと、八丈島特産のムロアジの捌き体験をさせていただきました。工場内のくさや汁の臭いに衝撃を受けましたが、試食で提供していただいたくさやは大好評でした。



午後は参加者が楽しみにしていたスノーケリングです。実施地である底土海岸へ歩いて向かいました。底土海岸に着くと、漁協女性部の皆さん提供の八丈島産の材料で作った「手作り弁当」が用意されていました。トビウオのすり身揚げ、メジマグロの竜田揚げ、手作りツナの揚げ餃子、ムロアジのメンチカツバーガーなど、どれも美味しく、早くも八丈島を満喫できました。

そして、初めてのスノーケリング体験。今年度も八丈町のフリーダイビングチーム Team BlueArch（ブルーアーチ）の方々に御指導いただきました。1ヶ月前の事前研修会の復習から始め、八丈島のきれいな海で気持ちよく泳ぎました。ブルーアーチの皆さんやスノーケリングに長けた八丈教委はじめ町の協力者の方々が、各班に2名以上ついてくださる手厚いサポートで、参加者は想定以上に上達し、2回目は初めからもっと泳げるだろうと、ブルーアーチの皆さんも太鼓判を押してくださいました。浜辺では、地元の人にも名前を知らなかったハマナスホリガニというカニを見つけ、山梨にはない自然に触れることができました。一方で、海水温の上昇や観光客による踏み潰しによる珊瑚の白化が進んでいるという現実を知り、環境問題について真剣に考える良いきっかけとなりました。

体験を通して多くの方との交流を楽しみ、八丈島の透明度の高い海に魅せられ、充実した時間を過ごしました。



そして、この日の夜はみんなで草の上に寝転んで、星空観察をしました。思わず眠ってしまいそうになる気持ちよさでしたが、見上げた空には満天の星空。星の光を妨げる明かりのない場所だからこそ、小さい星までたくさん見えて、とても素敵な時間でした。

交流の日（8月5日） 朝釣り、八丈町小中学生との麦雑炊作り



この日は早朝5時に集まり、朝釣り(希望者のみ)を行いました。まだ薄暗い中、神湊港へ移動し、朝日が昇るのを見ながら海釣りを楽しみました。残念ながら、爆釣ということにはなりませんでしたが、2匹の魚を釣り上げることが出来ました。山梨では決してできない海風を感じながらの釣りは、きっと参加者の心に強く残ったことでしょう。

10時からは八丈町小中学生と交流しました。最初はお互いぎこちないやり取りでしたが、アイスブレイクを通して距離を一気に縮め、お互いの住んでいる場所の紹介や趣味の話で盛り上がる事ができました。交流会後半は、地元漁業組合婦人部の皆様のご指導のもと、八丈町郷土料理である麦雑炊づくりを行いました。八丈島の方言を教えてもらいながら、八丈島で採れた貝や野菜、きのこなどの食材を切り分けました。お米があまりとれなかった八丈島では、昔から麦やあわ・きびを主食とし、雑炊にして食べていたようです。八丈島の食の歴史も学ぶことができました。



雑炊づくりと同時並行で、各班テントサイトにモニュメントを作りました。針金5本とBCにあるもの(草木等)を使って、山梨と八丈の子どもたちが協力して作成しました。昼食後に、1班から順番にモニュメントの名前と特徴をユーモアを交えながら発表しました。協同作業をすることで、山梨と八丈の子どもたちの心の距離がさらに縮まり、きずなを深めることができたのでしょうか。短い時間の交流でしたが、話すだけでなく体験を共有して通じ合うものが生まれ、後の山梨での再会でも、すぐに仲良くやりとりする様子が見られました。

夜は、本事業最大のプログラムでもある「サバイバル踏破」のパッキング指導を行いました。自分の荷物に加えて、配布された2日分の食料や調理器具、ブルーシート等を班で話し合いながら分配しました。自分勝手な部分が出てしまい、夜遅くまで話し合いを行った班もありました。しっかりと話し合いを重ねたおかげで、全員が納得する形で荷物の分配を終えることができました。



サバイバル踏破（8月6、7日）

海洋道中・現地研修のメインイベントとも言える、1泊2日の八丈島内巡り。時間や距離を短縮した昨年度の「八丈チャレンジウォーク」から、以前の時間や距離に戻した形で実施しました。

最初の班は、朝日を浴びて、気持ちよく出発していきました。その後も、各班、それぞれの計画にそって出発しました。



1日目は、晴天に恵まれましたが、突然降りだすスコールに悩まされる場面もありました。VL指導のもと、うまく休憩を挟みながら、歩みを進めました。少し遅れる班もありましたが、暑さや足の痛みを乗り越えて、どの班もビバーク地へ辿り着き、各地の温泉で疲れを癒しました。みんなで夕食を食べ、これまでで一番話をして過ごした夜は、参加者の絆を深めたようです。

2日目。早い班は6時に出発しました。前日の疲労と体の痛みもありましたが、我が家であるBCへ戻るために、力強く歩みを進めました。体調の悪い仲間を気遣い、励ましあったり歌を歌って楽しませたり、班で工夫して長い道のりを歩きました。いよいよ各班の到着。一緒にゴールテープを切る時には、どの班も、みんながやりきった笑顔で、出発前より互いの顔を見合っている様子が見られました。先に到着した班が後続の班を拍手で迎える様子も微笑ましかったです。

夕食はお好み焼きに海水で茹でたジャガイモ、そしてスモアを食べました。さらに、地元漁協組合の方によるキンメダイの解体ショーが開催され、新鮮なお刺身をいただくことができました。ここでも八丈島の人のあたたかさを感じられずにはいられません。夕食後は、「サバイバル踏破報告会」。ファイヤーの前で各班それぞれに、感じたこと、印象に残ったこと、大変だったこと、を話しました。踏破中、八丈教委はじめ、八丈島内の多くの方々に、声援をいただき、スイカやパッションフルーツなどたくさんの差し入れをいただきました。参加者の言葉には、八丈島の方々の優しさに対する感謝の気持ちが溢れていました。仲間と協力して歩いた長い道のり、苦勞を乗り越える達成感、互いを思いやり支え合うことの大切さ、人の優しさの有り難さ、多くのことを感じて過ごした2日間でした。



この日の最後に参加者の皆にとっては悲しい連絡をしなければいけませんでした。台風7号発生に伴う日程の短縮を、団長より連絡しました。BCでの生活に慣れ、仲間との協力・連携もスムーズになってきたところでの突然の知らせは、参加者の動揺を誘うことになってしまいました。しかし、団長の「限られた時間を最大限楽しもう」という言葉に、参加者もしっかり頷き、残りの2日間を充実したものにするのを誓いながら、寝床につきました。BCの地を恋しく思ったのか、この日はテントの外で寝る参加者や指導者もいました。八丈島の大きな空の下で、体いっぱい自然を感じながら寝ることができました。

この日の最後に参加者の皆にとっては悲しい連絡をしなければいけませんでした。台風7号発生に伴う日程の短縮を、団長より連絡しました。BCでの生活に慣れ、仲間との協力・連携もスムーズになってきたところでの突然の知らせは、参加者の動揺を誘うことになってしまいました。しかし、団長の「限られた時間を最大限楽しもう」という言葉に、参加者もしっかり頷き、残りの2日間を充実したものにするのを誓いながら、寝床につきました。BCの地を恋しく思ったのか、この日はテントの外で寝る参加者や指導者もいました。八丈島の大きな空の下で、体いっぱい自然を感じながら寝ることができました。

自主の日 閉村の日（8月8日）

班別自主活動、BC撤収、ふるさとタイム、さよならレセプション

急遽予定を変更して、BC地の撤収作業は指導者で行い、参加者たちは事前に計画を立てた班別自主活動を行いました。サイクリングで島内を巡り、疲労で余裕がない踏破時には見られなかった景色をゆっくり見ることができました。海水から天然の塩作りにチャレンジした班もありました。指導者の「参加者たちにいい思い出を持ち帰ってもらいたい」という強い思いから生まれた特別日程ではありましたが、最後の最後まで八丈島を満喫することができた半日でした。一方で、急な予定変更にもかかわらず、撤収作業にお手伝いいただいた八丈島の方々には感謝しかありませんでした。



午後は2班ずつに分かれ、八丈町のお土産屋さんで買い物をするふるさとタイム、ふれあいの湯での入浴タイムに交互に向かいました。BC撤収後のため、夕方からは三根小学校の体育館をお借りして活動しました。戻った班から、所属校の校長先生へ葉書を書きました。海洋道中で感じたこと、学んだこと、自分にしか書けないことを伝えようと、みんな時間をかけて書き上げていました。

この日のメインイベントである「さよならレセプション」では、第一部で、研修期間毎日お世話になった八丈教委の方を囲んでの食事会、そして、島の伝統である八丈太鼓の演奏を鑑賞しました。第二部では、班ごとに八丈での思い出を振り返るスタンプ披露があり、どの班も自分たちにとって印象深い瞬間を表現してくれました。レセプションの最後には、BC地で行う予定だったキャンプファイヤーの代わりに体育館でマイムマイムを夜遅くまで踊って、最後の夜を楽しみました。



離島の日（8月9日）

とうとう八丈島とのお別れの日。底土港で離島式を行い、参加者代表から、現地研修での感想、八丈教委の方々への心からの感謝の気持ちを伝えました。最後は、八丈富士をバックに集合写真を撮りました。手を振りずっと見送ってくれる八丈町の方々との別れを惜しみながら、島を後にしました。



船内では、竹芝栈橋が近づく頃、最後の班別ミーティングを行いました。仲間やV L、そして指導者、それぞれの思いを受け止め合い、じっくり八丈島での8日間を振り返りました。竹芝栈橋に到着後には「解団式」を行い、この充実した8日間、参加者・指導者それぞれに互いの成長や変化を感じながら、第34回「やまなし少年海洋道中」の最後を迎えました。こうして、今年度の「でっかい体験」も無事に幕を閉じました。